

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念の一つに「入居者が地域社会の一員として普通に生活できるよう家庭、地域、ボランティア、関係機関と連携し、地域と関わりある生活が送れるよう支援する」と掲げている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・毎朝、申し送りの最後に理念の唱和を参加職員全員で行っている。又、勤務表の裏面に理念を掲示しており、いつでも確認できるようにしている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・理念は、家族に対して入居時の説明文章に明記して説明を行っている。又、ホーム内の見やすい所に掲示している(玄関、廊下)</p> <p>・パンフレットに理念を掲示して、配布時に説明を行っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・買い物等の散歩時に近隣の人と話しをする機会がある。又、地域の人が時々花を持って来たり、雑談をしに来る事も時々あるが、もっと関係を深めていく必要がある。</p>	<p>○</p> <p>・今後も継続して近隣の人とコミュニケーションを図っていき、関係を深めていく。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・現在、自治会に加入しておらず、老人会や行事等への参加も行っていない為、今後は地域活動に参加する機会を作り、地域に人々と交流することに努めていく必要がある。</p>	<p>○</p> <p>・今後、地域推進会議を活用しながら、積極的に地域に働きかけを行なう。そして、地域活動に参加する機会を作り、地域の人々と交流ができるよう努めていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか検討してはいるが、まだまだ事業所及び職員の力量不足であるので、まだ実際には取り組んでいない。	○	・今後、地域の高齢者等の暮らしに貢献できるよう、事業所及び職員は様々な努力を行って、介護等に関する知識や技術の習得を行い、力をつけてから取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価及び外部評価についての勉強会を実施している。又、評価を基にサービス改善に活かしていけるよう体制を整備している。(会議やミーティング、日々の業務中の話し合い)		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議を実施しているが、開催が不定期であり、まだまだ会議が上手く活用できていない。	○	・定期的な会議運営を行い、そこでの話し合いや報告、意見をサービスに反映していけるよう取り組んでいく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・行き来する機会はあるが、サービスの質の向上について今後は更なる連携が必要である。	○	・市町村担当者との連携を運営推進会議以外でも図っていき、共にサービスの質の向上に取り組んでいけるよう努めていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・現在、地域権利擁護事業や成年後見制度についての勉強会は実施しておらず、各職員は参考書等を読んだの自己勉強をおこなっている。	○	・現在、必要と考えられる人はいないが今後必要に応じて活用できるように、外部研修や勉強会等の学ぶ機会を作っていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・適宜資料等での学習を行い、事業所内で虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めてはいるが、高齢者虐待防止関連法について、全職員が完全に把握できていない。	○	・今後も高齢者虐待防止に努めていくにあたって、継続的な勉強会を実施して、全職員がより詳しく把握できるよう努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・入居契約時に家族、利用者に対して契約書、重要事項説明書を基に説明を行い、理解、納得してもらってから契約を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・特に機会は設けていないが、利用者が意見や不満、苦情を日常生活において気軽に表せるよう職員は支援している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・定期受診時や、面会時に生活状況の話を行うと同時に広報誌でも報告している。健康状態については、何か問題があれば、随時家族に連絡し、状態の報告をおこなっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・機会は設けていないが、苦情窓口及び処理体制はある。</p>	<p>○</p> <p>・地域推進会議や親睦会を活用して、家族等の意見を聞き運営に反映させていけるよう努めていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・年2回の面接時に話し合いをおこなっており、意見や提案があればその都度検討している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・現在、必要な時間帯に職員を確保するための勤務の調整はできており、利用者の状況に合わせて柔軟な対応ができている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・異動や離職を必要最小限に抑える努力をしており、代わる場合には、他職員で協力しながら利用者へのダメージ軽減に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・日々の業務の中で、適宜指導を行なっている。又、法人内外への研修には、職員の希望等を考慮しながら積極的に参加ができるように取り組んでいる。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・沖縄県グループホーム連絡会に加盟し、様々な会議や研修への参加を通してネットワーク作りや、サービスの質の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・勤務体制や、職場内の雰囲気等の環境について配慮、工夫がされており、悩みや相談があれば気軽に話を聞いてもらえる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・全職員は、年2回の自己評価を基に上司の面接を受けており、その時に日頃の勤務姿勢に対する評価やアドバイスをしてもらっている。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・相談があった時は、状態や本人のニーズを把握する為に実調を行っている。又、利用する前にはホーム見学を何回か行ってもらい、その時に不安な事や求めている事を聴くようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・相談があった時は、家族より十分話を聴くように努めている。又、実調時やホーム見学時にも近況等の話を聴いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談があった時には、しっかりと話を聴いた後に必要としている支援について確認を行い、様々なサービス利用も含めた対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前に何回か本人と家族と一緒にホームに見学に来てもらい、場の雰囲気に馴染んでもらえるようアプローチを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は、利用者から学んだり、共に支えあって生活していく関係作りに日々努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族の訪問時に、近況について話をしたり、意見を聞いたりしながら支援している。又、状態に何か変化があった時には、家族に連絡を行ない、支援方法についての相談や確認をおこなっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人と家族との関係の理解に努めており、より良い関係が築いていけるよう本人及び家族に対して配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会の制限はなく、馴染みの人との関係が途切れないよう努めている。又、外出やドライブ時に馴染みの場所に時々立ち寄りしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者一人ひとりの性格や認知症の状態、当日の心身状態の把握に日々努めており、一緒に雑談や散歩等の活動を行いながら利用者同士の関係作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・利用者や家族の希望や必要に応じて適宜相談等の支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・暮らし方の希望、意向の把握に努めているが、日々思いは異なるので、今後も継続して把握に努めていく必要がある。	○	・全職員今後も意識を高めて、利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者や家族より様々な情報を得てはいるが、職員間で情報を共有する事が出来ていない。又、まだまだ把握できていない事が多々ある。	○	・カンファレンスやミーティング、申し送り等を通して職員間での情報の共有化に努めていく。又、利用者や家族との会話の中で見落としている情報がないか確認すると同時にさらなる情報の把握に努めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・ケース記録や連絡帳を職員は毎日確認しており、又、カンファレンスや日々の申し送りを通じて心身状態の把握など総合的な把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人や家族の意見やアイデアを反映させた介護計画を作成しているが、継続的に意見やアイデアを聞き取り、介護計画に反映させていく努力が必要である。	○	普段の何気ない会話の中から本人の求めている事を引き出すよう心がける。家族については、面会時等に本人の状態等の話題を取り入れながら、家族が意見を出しやすい雰囲気作りに努めていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・本人の状態や介護計画の期間に応じた見直しを適宜行なっている。又、状態に変化があった時には、家族に報告すると同時に必要に応じて話し合いを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別にケース記録を作成して活用している。又、連絡帳や日報も用いて情報の共有に努めている。カンファレンスや朝の申し送り時には、気付いた事等の話し合いを行ない、介護計画の見直し等に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人や家族の状況やその要望に対して、可能な限り対応できるように柔軟な支援を心がけて行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・本人の意向や必要性があれば、地域資源を活用しながら支援をおこなっていきたいが、現在はまだ十分な連携が図られていない。	○	・地域推進会議や、日々の生活を通して、もっと連携していけるようホーム全体で地域に働きかけていく努力を行なっていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・本人の意向や必要性があれば、他サービスを活用する為の支援をおこなうが、まだまだ他ケアマネジャーや他サービス事業者との連携体制が十分ではない。	○	今後は、地域で支えていける環境を作る為に、他ケアマネジャーや他事業者との交流や連携作りに努めていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協議をしていない。	○	・地域推進会議を活用しながら、今後は地域包括支援センターと総合的な協議の場をつくっていくように努力する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関はあるが、その病院を強制する事はなく、本人や家族が希望する病院に受診してもらっている。		

沖縄県(グループホーム 美ら里さしき)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>・検討委員会を発足させて、今後の方針等について検討していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・記録等の個人情報の取り扱いについては、出来ているが、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応について徹底して出来ているとはいえない。	○ ・日常生活を送る中で、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーが十分に確保できるように、全職員で意識して支援していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	・可能な限り利用者が思いや希望を表せるように支援しているが、十分に出来ているとは、まだまだ言えず今後さらなる努力を要する。	○ ・一人ひとりの状態把握に努めるを共に、声かけや日々の場面作りに工夫を行って、思いや希望がもっと表せて、納得しながら暮らせるように支援していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の状態や希望に応じて業務の調整ができるよう職員間の連携に努めており、何らかの希望があった時にはその都度対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・身だしなみや化粧等のおしゃれについては、一人ひとりの意見を反映させて行っている。又、散髪についても家族の意見や協力を得ながら行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・毎食時、利用者と職員と一緒に準備や盛り付け、配膳を行い一人ひとりの好みを活かし、出来る事を活かしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・一人ひとりの状態や要望に応じて嗜好のものを日常的に楽しめるよう支援する体制がある。 ・現在はタバコや酒を要求する入居者はいない。	

沖縄県(グループホーム 美ら里さしき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・一人ひとりの力や排泄パターンの把握に努めており、失敗時には本人の羞恥心等に配慮した対応ができています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴日や時間の制限は決めておらず、一人ひとりの希望に応じて行っている。又、声かけにも工夫を行って入浴のタイミングを図っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・日中は様々な活動を実施し、生活リズム作りに努めている。又、夜間は睡眠チェックを1時間毎に行っており、その情報を考慮しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・洗濯物干し、たたみや食事準備、片付け等、一人ひとりの得意な事の役割があり、楽しみ事への支援を行っているが、まだ把握できていない事や力を活かしていない所がある。	○	・カンファレンスや申し送り、日々の業務の中でもっと一人ひとりを把握するよう努めていき、職員間で情報を共有してさらなる支援ができるように取り組んでいく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在、自分で金銭管理をしている入居者はいないが、金銭管理能力があるが行っていない人がいる可能性がある。	○	・一人ひとりの金銭管理能力を見極めに努め、力量に応じてお金を所持したり、使ったりできる機会をつくっていくように支援する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・日々、利用者の状態や希望に応じて、中庭や近所への散歩、買い物等戸外にでかけられるよう支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・一人ひとりの要望に対して、出来る限り対応するよう心掛けており、行事やドライブ等の機会をつくり、支援している。		

記入日:平成20年4月1日

沖縄県(グループホーム 美ら里さしき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ホームに入居者あてに電話があった時や本人からの要望があった時には適宜対応している。又、手紙が来たときには、本人に手渡している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・気軽に訪問しやすい雰囲気作りに努めている。又、訪問時間や宿泊については特に制限しておらず、訪問時にはホーム内の何処でも自由に過ごしてもらっている(居室、リビング、畳間等)		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・見守りや付き添いでの対応を行い、時には転倒を未然に防ぐ為にセンサーを活用して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中、玄関や居室に鍵をかけていない。又、鍵をかける事に対して、職員は拘束と理解している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日勤帯は玄関にセンサーを設置して外出の把握に努めている。又、常に職員間で連携を取りながら入居者の所在及び様子の把握を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・一人ひとりの状態を考慮して、物品の取り扱いを行っている。又、注意の必要な方に対しては、見守り、気配りを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故防止マニュアル、業務マニュアルを作成している。またカンファレンスを通じて一人ひとりの状態にあわせた対応に取り組んでいるが、継続して事故防止に取り組んでいく必要がある。	○	・継続してマニュアルの内容確認及び勉強会を行うと共に、利用者一人ひとりの状態の把握にも努めて事故防止に取り組んでいく。

沖縄県(グループホーム 美ら里さしき)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>・緊急時対応マニュアルを作成している。応急処置や初期対応について適宜勉強会を行っているが、全ての職員が熟知しているとは言い難い。</p>	<p>○</p> <p>・緊急時対応マニュアルの内容確認及び、応急処置や初期対応についての勉強会を定期的に行っていく。又、講習会等への参加を積極的に行っていく。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・適宜ホームにて消火器を用いた消防訓練を実施しているが、地域の人々の協力をえられるような努力や工夫がなされていない。</p>	<p>○</p> <p>・災害時に協力を得られるよに、日頃から信頼関係の構築に努めていく。又、ホームでの消防訓練時に近隣住民や地域住民に参加してもらえるように促していく。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	<p>・毎朝及び適宜バイタルチェックを行い状態の把握に努めている。又、異変がある時には適宜職員間で話し合いを行ったり、申し送り時に情報の共有を図ったりしている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>・毎朝及び適宜バイタルチェックを行い状態の把握に努めている。又、異変がある時には適宜職員間で話し合いを行ったり、申し送り時に情報の共有を図ったりしている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・薬の管理、与薬については指示通り実施している。又、薬の目的や用法、副作用については個人別にファイリングして、いつでも確認ができるように保管している。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>・飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいるが、便秘の原因や及ぼす影響を全職員が理解しているとは言い難い。</p>	<p>○</p> <p>・便秘の原因や及ぼす影響についての勉強会を行い、職員が理解を深めていける機会をつくる。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>・一人ひとりにあわせた対応を毎食後行っている。声かけを行い、イソジンガーグルを用いて口腔ケアをおこなっている。</p>	

沖縄県(グループホーム 美ら里さしき)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとり食事チェックを行っており、栄養バランスも週単位で献立を作成し偏りが無いか確認している。又、状態や力、習慣に応じた食事内容を提供している(食事形態や好み等)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・予防と早期発見に努めており、発生した時に備えて感染症マニュアルを作成している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・全職員で清潔を保つ為に台所や調理道具の衛生管理に努めている。食材についても、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。(買い溜めは控え、適宜買い物に行き、調理時には使用食材の賞味期限を確認している)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周りに草花を植えて親しみやすいよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・様々な音や照明については、一人ひとりの要望に応じて調整している。玄関やリビングには、季節の花等を飾っており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有空間の中に食卓テーブル、畳間、ソファがあり、一人ひとりが自由に過ごす事が出来るよう工夫されている。		

沖縄県(グループホーム 美ら里さしき)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人が使い慣れた家具等を持ち込んでもらってる。又、本人の希望に応じた物を飾ったりしているので、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・常に気配りを行い、必要に応じて換気を行っている。又、一人ひとりの状態や要望にも応じている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーで、廊下やトイレ、浴室には手すりがついている。又、各居室やトイレ、浴室にはナースコールが設置されており、安全で安心かつ自立した生活が送れるよう工夫されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・各トイレには利用者の目線に合わせた案内札を設置している。又、居室入り口には、本人の意見や力を考慮して表札を設置している。混乱や失敗を防止する為の気配りや対応は出来ている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ホームの外周りを散歩したり、中庭で洗濯物干しや一息休んだり、外の空気が自由に楽しめるように入居者が楽しく活動できるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム 美ら里さしき)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①毎週月、木曜日の午後2時からリアリティー・オリエンテーションを行い、現在の生活場所や状況等の現実的情報の提供を行なっている。
- ②日中は大まかな業務はあるが、細かく決めていないので、利用者の状況や状態に応じて臨機応変な対応を心がけて支援に努めている。
- ③利用者の出来る事、出来ない事の見極めに努めながら、可能な限り日常生活活動への参加を促している。
- ④利用者の誕生日当日にささやかではあるが、誕生会を行っている。(家族の参加もある)